

書評

タイトル：

Sentinel Node Navigation
癌治療への新しい展開

編集：北島 政樹， 久保 敦司

出版社：金原出版株式会社

価格：7,800 円

頁数：296 頁

版数：第 1 版

コード：ISBN 4-307-20168-X

外科手術の低侵襲化は術後の QOL 保持や医療費抑制などを目標とした大きな流れである。Sentinel node navigation surgery (SNNS) はそれを支える手法の一つとして脚光を浴びている。2002 年秋に開催された国際 sentinel node 学会や日本 SNNS 研究会、さらに癌治療学会、臨床外科学会、核医学会などの SNNS のセッションでの盛況ぶりはそれを如実に物語っている。本書はそれら学会での発表を常にリードしている各分野のエキスパートによる共同執筆であり、ほぼ本邦における現状での集大成と言える。

内容はセンチネルリンパ節の概念、歴史、理論、病理、検査法などの総論から始まり、各論に

おいても再度、核医学や病理学の詳細を取り上げ、引き続き臓器別に記載されている。臓器としては、乳腺、食道、胃、肝・胆・脾、大腸、皮膚、肺、口腔・咽頭、甲状腺、子宮・外陰の多岐に渡っている。臓器別の各章においては、それぞれ SNNS の必要性から話が始まり、具体的な手法に進む。手法も RI 法のほかに色素法も述べられているので、それとの対比で RI 法の特徴をつかむことができる。それぞれの章には多数の参考文献が挙げられているので、基本的な知識の取得のみならず、さらに深い知識を求める読者にとっても有用である。手術におけるリンパ節郭清の実際やリンパ節転移の病理診断に疎い放射線核医学医師にとって格好の参考書である。逆に、RI 取り扱いの基本や radioactivity の検出・定量法に疎い外科系医師にも目を通して欲しい。

“治療に貢献する核医学検査”的として SNNS における RI 法が広く普及することを望み、これからそれを行おうとする施設の放射線核医学医師・技師、外科系医師、病理医などに広く読まれるべき一冊である。

東京医科大学八王子医療センター 放射線科
小泉 潔